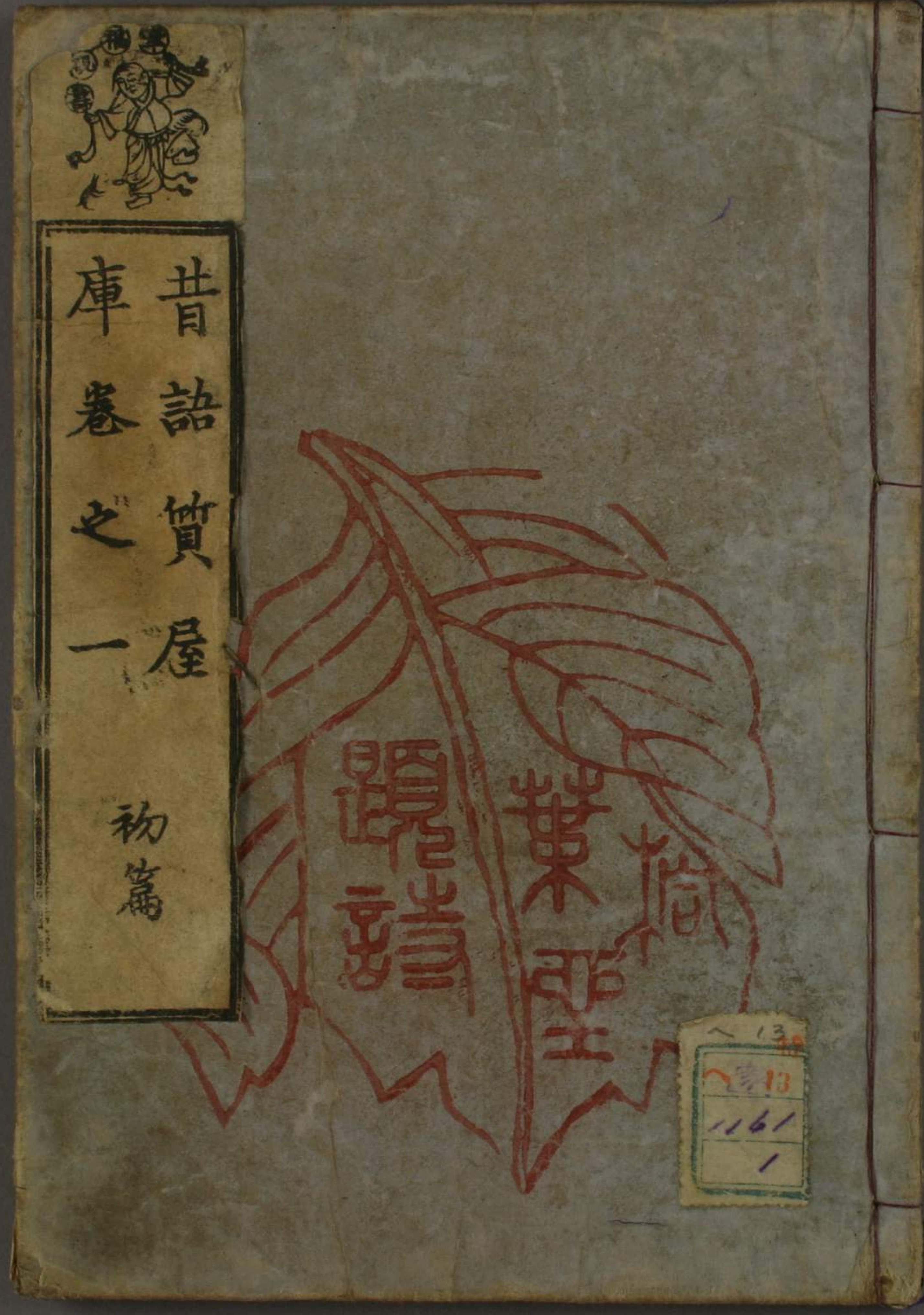




この編は故事俗説の錯悞を辨じ、童蒙讀史の階梯をせうと欲めし、

飯台曲亭翁著演

初編五冊

昔語質屋庫

文金堂梓

春亭勝川主人畫



文辭畏褻といふまでもな本据ありと標本虎が繕梓之海國布く所以なり

句

雕窗

余の武の冊子に續る。結句に松乃
言ふ。くも。勉て。節。墨。を。う。ま。り。し。に。お
事。任。院。の。異。同。を。辨。る。理。字。推。義。を
得。て。成。す。と。勉。む。る。ま。は。の。夜。ふ。そ。
比。余。の。書。字。等。案。法。を。因。鏡。——と。
この語を軸にとり、解きやうと、志し、
大正四年に入ると、このころ、比喩を

る。鹽漬をよし。田をいふ。能書のある
所。いふ。願。福。無。齊。魯。鄰。乃。
俗。語。あ。楚。韓。の。荆。人。の。方。言。を。収。め。
る。也。子。又。孫。の。稽。の。序。を。い。ふ。俗。語。を。
い。ふ。用。心。を。い。ふ。の。い。ふ。を。い。ふ。や。其。
の。を。い。ふ。彼。の。後。を。い。ふ。世。を。い。ふ。或。は。
い。ふ。ふ。苟。も。俗。語。を。い。ふ。世。を。い。ふ。其。
の。を。い。ふ。其。を。採。り。て。い。ふ。乃。山。陰。

義小説のふとて。俗語をよし。これ。
と俗語を必新古む。と。い。ふ。い。ふ。い。ふ。
其。あ。る。の。の。其。あ。る。の。の。い。ふ。い。ふ。の。人。を。
い。ふ。い。ふ。い。ふ。い。ふ。い。ふ。い。ふ。い。ふ。い。ふ。
其。神。話。い。ふ。い。ふ。い。ふ。い。ふ。い。ふ。い。ふ。い。ふ。
其。い。ふ。い。ふ。い。ふ。い。ふ。い。ふ。い。ふ。い。ふ。い。ふ。
文化七年庚午林銓義宣治臣が
於其心也。此。の。い。ふ。い。ふ。い。ふ。い。ふ。い。ふ。い。ふ。い。ふ。



歌書

李毛軍

書年

萬々吉

野山

錄
支
考

勺

山のてふ

和之

大子王元

わろ
帰
系

時也

本
如
此

五





鬼屋敷



古物怪とるの譬
石像地藏
旅客小
知る



古物
鬼
取
古
等
古
馬
夜
疾
鬼
走
如

千枝常則筆

昔語質屋庫初編總目錄

發端	室咲の質草	第八	眉間尺觸體盃
第一	讀書先生歌案	第九	橋逸勢薄命一行物
第二	友切丸	第十	紀名虎錦繡梳鼻禪
第三	曾我十郎衛小紋衣袖	第十一	袈裟御前苦節徒
第四	諸葛孔明陣大鼓	第十二	九尾狐裘
第五	依藤太龍官入の弓袋	第十三	崇徳院天狗爪取剪
第六	石堂九高野詣脚絆	第十四	鎌倉時代の上下
第七	平將門哀龍製東	第十五	米糞上人の乞食袋
通計一十六條 完			



昔語質屋庫卷之一

東都

曲亭馬琴演

發端 室咲の質草

行々相値莖々相望。伎々相準。葉々相向。華々相順。實々相當。此無量壽経よ所言。天宮の宝樹や。塵世の所ふあざと。洪容齋が隨筆と。くや霞も雲井より。南都の皇居より。遠からぬ六田の御の質屋と。マ理な和刻も典物と。預る世渡り。野五器堅い。牙上美。好事屋宝樹と。ふりのあけり。後醍醐帝の延元。より。後龜山院の天授より。南帝三世。俺ハ二代より。好更不耽。匠。道具質りて。活業と。と。ぬ。足。ぬ。世。ハ。夏。冬。の。入。習。の。より。取。質。草。の。小。紫。ら。枯。と。ま。か。南。朝。

門入 1161 卷

家傳の書と一部售て三方金にりたる智恵とや。経籍史傳
歌書雜書和漢の珍書いづれ紙魚の肚と肥すのち折て投て
ところ何のうとも譯らねば唐宋名家の法帖と芝居の番附と
と思ひ延喜天福の詠草と熟妓の豊簡とと娛からむと云ふ紙屑同
小賣りの損買りの得缺本の仏書と消壺の蓋と張とて火宅と
脱とて古板の方書と炮爐ととて炙て黄るるまで小至る盡と
孟子ハ絨めとてるこれ戸の節孔と塞ぐと終りて濮陽隙の一句と遺
彼書を焼く儒と坑ととて燬す。秦の始皇の惡政とて易経曆書
残す小驕奢とて省と衣食とを減じ年と共と横貯し。父祖の書
酒の爲小一部も遺さば沽却られ残るる牙只ひとついたひ
道具屋のち小遠らんとしり。さうへ正く家への像見と貞鏡分
涙ととも小幸とてとり留め腰巻の中崩れかけし土葬の棚へあ

らまゝ。日待の茶番年忘の素人淨瑠璃の見臺と調宝から
る朽とて宋人の章甫とてり。楚人の冠とてるも劣る果ハ質屋
の庫住ひ罪多くて縲絏の恥也。晴主とて身の不覚各位のちの中
推量らまゝ痛とて苦うとてひけとて。衆皆頻々嘆息。現
先生の宣へて。宝へて身のうがえとて。凡夫の手前傍子。先祖
千幸万苦とて組とて。家庫所領を懐けて取り子孫へ徳を
ゆけとて。不自由とて。洪福とて。思ひかけとて。淫酒の爲
ながれとて。忽ち失ふ大慾ハ所謂慾はちたて。寔小人の
おとろけとて。のへあじ唐山ハ戦國のたれとて。さうその子と
通ずる。大日本の上古ハ人のさう淳朴とて。人質とて。のり



玉藻ノ前

曾我五郎

紀ノ名虎

大蔵ノ虎



諸葛孔明

讀書先生

好事屋
宝樹が質庫の
二階ふらいて
讀書先生
勧学の如

平ノ將門

橋やまの女児

小保元平治の播乱より。親子の間でも兄弟でも。うろくりつて由縁
 せむ。壽永の下の木曾殿へその子志水冠者を枉ぐ。鎌倉へ質入し。
 又元弘の三年めふ足利といふその三男。千壽王と質じて相摸入道へ通与
 せし。以来些旗色がらうあると人質ものぞ遺縁せぬ大將へ稀るべし。
 といふ。榮枯得失へ人間の常ある。質屋といふものの世ある。金銭の融
 通絶て貪乏かきとよとよとあひ人質と道具質と品こそかれ俺們
 へ主の先達よりしる忠臣世の史籍に載らして。芳名を留むべき
 不可。いふても質ふわけ。衣類雜器何れもあへど。百も餘計は借ん
 とく。切着ふ主管と口説の。受度と日の遠き。せむ。氣穿へ両損と
 といふ。ろら瑕物。踏まうとて推曲らる。厄限果てせむ。せむ。質の流
 と賤めらる。過世つらる。悪報ぞや。鳥の頭を向くる。馬の額へ角々

生ても。かくもで利足が度で。舊と返る日あへど。嗟夫朽とや。とま
 りろども。小声うりて。発憤し。読書先生も。湧うらう。その述懐は
 理あり。各位の宣ふ。宝の。智といふ。善悪。あり。清貧ふ
 ち。世は。零落。親の。為主の。金。の。後。か。つ。て。有。る
 物と沽却。む。む。何物。且く。質入。する。も。恨む。と。よ。あ。は。れ
 酒の。馬。牙の。皮。剥。白。徒。は。品。う。り。て。か。る。忠。孝。信。義。の。人。は。年。中。質
 屋へ。奉。り。て。も。文。人。は。方。策。と。售。ら。む。武。士。は。腰。刀。と。質。小。置。む。と。れ。そ。の
 本と。ま。ま。ば。る。り。そ。う。本。乱。し。と。未。あ。さ。う。は。は。和。漢。の。宝。つ。ま。あ。れ。ど。
 仏。法。僧。の。三。宝。あ。も。す。る。書。籍。の。ま。た。の。い。ち。も。あ。ら。う。疎。大。約。盜。賊。の
 目。か。つ。り。の。第一。は。金。銭。第二。は。衣。裳。第三。は。大。刀。第四。は。洞。織。第五。は。

の関入入し。動されば茶金と外し。茶灌とさう入る。各鳥のあまご。
一帙五圓金の唐本が鼻の先へ授けられても。方策の捉て置く。盜賊の
いと掃る。うやろ。價と知りて盗む。も。珍書ハ珍書の印あれば。
こまをふ便あり。信の道よ入るのあらむ。倍はさる。賊でも人の
宝とさる。そのの経籍史書よめ。うらふ。かき宝と宝とせざる。宝と
迷ひ。持武夫の宝とさる。弓馬兵具の武器よ。さる。あつれども文
暗け。真のうらう。いひ。さる。商賈の宝とさる。の四方雲顧乃
君子あり。まれば算筆小疎け。一月中世ハ。さる。武士の
学問あり。商賈ハ商賈の学問あり。士農工商もの。家業よ。うて
よく。と。修め。行ひ。を。む。の。聖人の徒といふ。故。い。あ。る。れ。武夫
の弓馬劍法農夫の時とさる。う。耕。耘。も。山妻の蚕飼。う。

績さ。機織る。番匠の規矩準繩り。柱とさる。商賈乃
算盤取て。の本銭と減さる。も。さる。聖人の教。い。か。れ。バ
人間日用の所。儒の教。れ。ハ。戸。ふ。う。さ。る。ハ。入。る。と
さる。道。よ。ら。る。ハ。家来ハ主を敬ひ。子ハ親を敬ひ。妻ハ夫ハ冊。明
友ハ信を。長者ハ坐を。さる。の。を。隣。さ。る。け。嫁。さ。る
婿ハの式三献年賀追善。さる。飯碗ハ左ハ春。節。右ハ採。追
る。聖人の教。う。礼節の端。さる。さる。聖人の遺徳
とさる。亦是天地ハ萬物を化育。れ。も。萬物ハ天地の徳。さる。親ハその
子と養育。れ。も。その子ハ却又母の恩徳。さる。か。如。く。普。く。徳。を。布
る。が。その徳と徳と。と。を。名。つ。け。て。仁。と。い。ふ。さる。人。も。井。の
底の蛙。ひ。と。大海の満。さる。三尺四方の井戸。側ハ推當。て。大海

衆皆驚きこれと云ふ。古金襴の袋小袖。金覆輪の袴と穿。洞金造
りめ。赤洞鮎子。九袴の帯と締。重汚の腹巻。小南蛮鍔。濂の刀緒
と懸て。金無垢の紳。よまほ。この細く。意気揚々。うろ。形勢。伺つねど
名とある。勇士の骨相。と。流金の友。四九。五幕。金沢の名。他。と。感ぜぬ
の。の。けり。彼。仕。役。の。う。と。貯。で。貯。まる。月。貫。は。排。を。と。だ。と。い。い。
焼。又。と。切。り。て。匂。ひ。の。で。れ。息。と。吻。せ。世。は。朽。と。れ。正。も。あ。る。ね。これ。の。往。昔。建
久。四。年。時。も。五。月。の。兩。夜。の。待。合。曾。我。五。郎。小。伴。と。く。二。藤。祐。経。と。戦。つ
る。時。宗。秘。房。の。子。銘。の。大。刀。と。ある。ふ。つ。の。程。う。ろ。源。氏。の。重。宝。汚。緑。と
い。ふ。又。友。四。九。の。名。と。願。せ。る。故。は。一。旦。紛。失。て。鬼。王。ホ。よ。苦。を。被。お。と
い。ふ。も。彼。ホ。よ。の。恨。て。友。四。九。と。索。し。ゆ。ふ。名。の。錯。悞。う。ろ。意。ま。へ。出。で
今。小。至。て。汚。緑。と。い。ふ。の。こ。そ。を。あ。け。と。ある。ゆ。も。あ。る。ぬ。ゆ。お。あ。る。て。友。四

九と稱する。と。送。恨。の。至。る。言。語。同。断。の。こ。う。と。説。ある。と。い。い。ふ。
この。名。と。記。し。と。ん。お。も。あ。る。と。い。い。ふ。今。夜。の。團。坐。の。程。う。ろ。幸。ひ。
や。づ。づ。素。生。と。彈。え。耳。う。ま。と。や。め。抑。五。十。六。代。の。聖。主。清。和
天皇。と。い。ふ。四。代。左。馬。次。源。朝。臣。横。次。多。甲。は。在。り。と。い。ふ。世。の。人。美。田。満。仲
と。稱。する。と。ある。満。仲。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。有。一。年。筑。紫。の。殿
治。と。召。さ。る。と。二。つ。の。大。刀。と。造。じ。ゆ。ふ。件。の。殺。治。の。名。墨。言。の。の。の。の。
八。幡。宮。へ。七。日。社。系。し。ゆ。お。頼。丹。精。と。抽。つ。凡。六。十。日。う。て。最。上。の。大。刀
二。口。と。似。り。や。う。の。長。サ。の。く。二。尺。七。寸。満。仲。や。て。有。罪。の。の。の。と。切。せ
これ。と。試。さ。る。ふ。ふ。一。つ。の。大。刀。ハ。罪。人。の。鬚。を。か。て。切。け。し。と。い。ふ。鬚。切。と。これ。を
名。つ。け。又。一。つ。の。大。刀。ハ。膝。を。か。て。切。け。し。と。い。ふ。膝。丸。と。を。名。づ。け。た。か。く。て
満。仲。の。嫡。男。頼。光。朝。臣。の。時。小。至。と。い。ふ。美。田。源。次。綱。有。一。夕。一。條。大。宮。へ。使

とき。彼鬚切を主と借りて帶えしむ。不慮ふたの大刀をりつて
 鬼の腕を切ちり。うて鬚切を更めく。鬼切とぞ呼ばる。その
 おも病床ふ。藤丸の大刀をりつて。山蜘蛛を破りしとあり。うて藤丸
 とも改名して。藤切とぞ呼ばる。その二口の宝刀を。満仲より
 六代の孫六條判官為義が家小使しり。有一夕。彼二の大刀
 鳴る。鬼切が吠る声。獅子の鳴小似し。又鬼切を改て
 獅子の子とこそ名づけ。蜘蛛切が吠る音。蛇の生は似し。とて吠丸
 と改名。その後。小為義判官。彼吠丸と誓ひ。出でて。熊野別當教
 真ふと。ふかる宝刀と教真が。牙小著。さふやうぞ。と。権現へ進
 む。うける。ふえ曆のな。ぬ。範頼義経。鎌倉殿の代官。とて。平家を
 西海に討つ。熊野別當。湛増。ひ。教真が。為義より。うけり。けれ。

吠丸の大刀をり。出て。義経へ。贈りし。う。義経。殊。よ。う。ひ。て。亦
 吠丸を更て。藤緑と名づけし。これ。熊野の春の山の緑。とて。けれ
 出され。藤緑の名と負せし。か。て。義経へ。舎兄。頼朝。と。不和。ふ。なり。
 大切。あり。と。し。ども。鎌倉へ。い。ま。さ。ど。空。く。腰。裁。し。追。久。され。て。京師
 へ。の。ち。ま。ん。願。の。音。あり。て。彼。藤緑の大刀を。箱根。権現へ。奉納。せ。り
 け。て。建久四年五月廿八日。曾我五郎時宗。又の仇。上。藤祐。を。殺。ん
 と。さ。う。し。た。箱根山へ。い。り。て。別當。行実。又。外。ら。牙。の。暇。を。告。う。パ
 行実。ゆ。や。その。気。き。を。猜。し。て。彼。藤緑の大刀を。り。出。く。時宗。し
 ち。く。う。バ。の。大刀を。り。と。かり。隨。ふ。仇人。を。バ。殺。め。ら。たり。ん。か
 その。ち。藤緑。を。バ。鎌倉。へ。送。れ。る。は。太平記の。劔。の。巻。ふ。つ。う。この。劔。の
 巻。と。い。ふ。り。の。も。舊。へ。太平記の。前。巻。ふ。あ。ね。ど。古。書。あり。り。り。この。説

小ぢぢと云へ。箱根の別當行実が手より。曾我五郎が獲る大刀を。
 満仲のとれ。よめて膝丸と名つけぬ。ひとを。おえとと。ぬ。切と改名。
 一。為義のとれ。亦吠丸と改。言と。義経。亦。赤。緑と名つけ。る。の。ふ。と。
 友。切。丸。の。と。れ。友。切。丸。の。と。れ。大刀。と。友。切。丸。と。毎。春。よ。索。う。から。う。
 出。ね。て。これ。が。為。子。子。と。棄。妻。と。賣。苦。公。看。管。の。腸。を。断。る。と。い。ふ。
 彼。友。切。と。い。ふ。大刀。へ。つ。る。物。と。い。ふ。小。前。小。演。る。獅子。の。子。の。別。号。と。
 為。受。判。官。壻。の。り。け。熊。野。別。當。教。真。は。吠。丸。と。改。言。へ。一。具。お。し。う。
 なる。大刀。一。つ。失。く。片。ひ。る。れ。や。う。よ。受。け。し。ば。播。磨。國。より。う。れ。假。治。を。
 召。上。し。獅子。の。子。を。奉。り。て。少。し。も。違。は。ど。造。り。せ。ら。る。最。上。の。大刀。と。
 け。し。ば。悦。め。の。よ。と。限。る。目。貫。小。鳥。を。飾。り。し。ば。小。鳥。と。ぞ。名。つ。け。ら。る。
 この。小。鳥。は。獅子。の。子。より。二。分。と。る。長。う。り。る。ふ。有。一。日。二。つ。の。大刀。と。

抜。て。障。子。へ。と。せ。う。け。て。置。り。る。ふ。人。も。さ。う。さ。ら。ぬ。お。が。と。と。倒。る。音。
 ぞ。え。け。し。ば。い。ふ。大刀。を。持。び。ぬ。擲。り。や。ま。つ。ら。ん。と。く。さ。う。あ。て。て。お。り。
 ば。目。貫。ハ。二。分。と。る。長。う。り。る。小。鳥。が。お。り。や。う。お。り。お。け。し。ば。不。思。
 議。く。さ。る。べ。き。や。う。や。ある。截。る。お。り。か。と。て。先。を。え。し。ど。も。さ。も。ほ。し。
 怪。し。と。斬。と。る。ふ。目。貫。折。て。お。り。け。り。抜。て。え。し。ば。鞘。の中。に。さ。む。ら。う。
 新。し。切。ま。と。目。貫。と。突。抜。て。さ。り。た。う。さ。え。え。し。ば。これ。ハ。一。定。獅子。の。子。
 が。切。る。と。こ。こ。ろ。ゆ。て。獅子。の。子。を。改。名。し。て。友。切。と。名。つ。け。ら。る。と。い。ふ。
 後。は。為。義。の。大刀。を。嫡。子。義。経。に。譲。り。と。ら。れ。し。と。亦。是。氣。の。巻。小。
 づ。り。か。れ。ば。友。切。丸。の。初。の。名。ハ。鬚。切。と。い。ひ。つ。と。お。え。の。と。れ。鬼。切。と。改。名。し。
 為。義。又。獅子。の。子。と。改。め。更。は。友。切。と。名。つ。け。ら。る。り。保。元。平。治。物語。
 東。鑑。亦。を。按。じ。る。ふ。友。切。丸。の。と。る。え。び。東。鑑。文。治。元。年。九。月。十。九。日。の。

鶴をうつせり。ゆきしる。殊小逸物とせえし。鶴が不圖水中へ入
被さる。金覆輪の大刀あり。白河院殊小秘蔵す。く。と
鳥羽院へ傳へさせし。も羽院又崇徳院へす。のひけ。と
為系判官へ賜てり。かれは為系入道降人となりて。嫡子の系を
憑て。とせし。と。彼鶴を。も。朝へ。つ。と。由緒
ある大刀あり。後白河院の御護刀。召し。東鑑に初
め。吠丸時雄と記し。次の條あり。吠丸鶴丸と記せし。不審し。我朝の
と。鶴丸と時雄と改名せし。又時雄は源氏の重宝鬚丸の一名歟
尋ね。が。の。と。実録。その本と推し。曾我五郎。伴。と
祐経と。某。源家の重宝友切丸あり。又。経の。と
改名。といふ。吠丸あり。時宗が。仇人祐経と。科。年。未

試して。剣。と。銘。の。刀。あり。と。時宗。古今。の。勇士。あり。その夜
比類。の。刀。あり。と。大。刀。の。名。の。さ。は。し。る。と。當。時。の
小説。作者。が。或。の。源。氏。と。ある。或。の。友。切。丸。と。ある。某。が。功。名。と
空。く。吠。丸。友。切。丸。と。ある。され。ば。大。刀。の。正。と。記。せ。書。名。の。劍。の。巻。と
唱。つ。と。中。葉。の。大。刀。と。劍。と。混。雜。し。て。ひ。ろ。く。お。お。え。し。る。へ。誤。り。り。
和名。鈔。の。劍。の。和。名。と。記。さ。し。別。は。屋。梁。と。奉。て。文。選。の。流。豆。流。岐。と。注
せり。今。按。ず。る。屬。樓。の。吳。王。夫。差。が。伍。子。胥。へ。賜。ふ。劍。の。名。る。れ。劍。と
豆。流。岐。と。和。名。せん。もの。から。と。て。和。訓。づ。る。と。い。つ。れ。る。の。義。あり。
而。刃。の。と。で。ハ。劍。と。も。豆。流。岐。と。も。い。ふ。又。和。名。鈔。あり。一。刃。と。い。ふ。大。刀。
和。名。太。知。小。刀。加。太。那。と。注。し。た。ら。ば。た。ら。か。の。も。も。一。刃。の。り。の。不。限。なり。
和。名。太。知。と。い。ふ。の。義。あり。か。こ。と。と。片。の。の。略。小。刀。加。太。那。

と和名沙汰注一たどへ今服指と喝するのの。かゝる。さうかゝると
 喝するのの。今のかゝる。片午や。羅へさりのふあふ。さう
 とも。和名の持。さりのふれど。久くまで。その恨を。さうさう
 職原の人ふ。さう。又今の人。さう。と喝するの。和名。質太奈。こ
 和名。鈔。刻。鏤。の具。の部。小。刀。子。錐。鰐。鉸。と。さう。出。せ。る。この字を被て
 喝する。と。後の。と。さう。さう。劔。の。巻。小。記。と。さう。合。点。さう。さう
 妻。鬼。へ。鬼神。と。熟。と。造化。の。迹。さう。又。冤。鬼。と。い。ふ。と。い。へ。幽。霊。の
 類。さう。さう。も。形。さりの。さう。さう。小。綱。へ。さう。さう。形。さる。鬼。の。手
 と。切。さう。さう。さう。さう。又。獅子。へ。天。竺。の。猛。獸。さう。さう。唐。山。さう
 する。の。さう。小。為。さう。さう。獅子。の。喝。声。と。さう。さう。大。刀。の。名
 あ。せ。ら。に。さう。野。捕。と。い。ふ。さう。又。略。と。い。ふ。さう。さう。さう。真。の。獅子

あ。あ。さう。飲。さう。さう。大。刀。小。名。つ。さう。さう。目。貫。小。さう。と。い。ふ。鬼。切
 の。目。貫。小。獅子。と。造。さう。さう。と。い。ふ。さう。獅子。の。子。と。改。名。さう。さう。や
 あ。さう。さう。又。蛇。の。注。声。小。似。さう。と。い。ふ。さう。お。不。つ。さう。山。兒。さう。の。
 大。蛇。の。對。睡。と。さう。さう。と。い。ふ。さう。蛇。の。注。声。と。さう。さう。と。い。ふ。さう。
 絶。と。さう。さう。さう。蛇。の。注。声。と。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう
 の。ひ。さう。の。判。官。へ。耳。と。能。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう
 と。物。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう
 名。つ。け。と。別。は。必。以。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう
 べ。れ。ど。る。毎。世。の。人。の。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう
 彼。胞。兄。さう。さう。さう。河。津。三。郎。祐。泰。へ。伊。豆。の。奥。乃。持。場。の。さう。さう。さう
 も。矢。ふ。さう。さう。忽。地。命。を。預。さう。さう。時。小。一。萬。僅。五。歳。さう。さう。さう。さう
 後。は。若。我。十。郎。祐。成。と。名。さう。さう

伊東祐親

女見

逼る

頼朝の子

奪入



伊東九郎祐清

祐親のこ某甲

頼朝



伊東祐親入道

辰ひめ

と仰せし。かくて祐成時宗ハ祖又ハ伯又ハ子家の方入る。小
よつて世の中ハ狭くありて曾我太郎祐信ハ養子浮浪人ありあつ
る。五郎ハ幼稚なり。勇氣殊なり。進一けし。母公ハ終ニ禍を
惹き入る。祝髪ハ亡父の菩提を弔へと教訓。箱根権現乃
別當。行実の弟子なり。登山したまふ。時宗の復讐の志
移り。遂ハ箱根と下山せし。母公ハ責懲されて彼此と於
あつ。北条時政ハ五郎ハ勇敢鳥なり。意中ハ謀る。あつ。
手づけて。代り。款待し。烏帽子親と稱す。これ
え服す。時政の一字とす。曾我五郎時宗と名告る。うけ。時宗
の宗の字。さ。の祝の。時政ハ六世の執権相模守時宗朝臣
の乳名。北條五郎と稱す。曾我五郎時宗のむなハ致といふ字と書べし。

こ。時宗と書。北條五郎とす。こと。人ハあれど東瀛。み
曾我五郎時宗とあれ。誤といひ。譬ハ西行法師の俗名と佐々木
義清といひ。あつ。て則清とも憲清とも書る。が如く。このごろの
記録ハ人の名告も。刻の。と。字といふ。く。引つけて書例ある。べ。
曾我五郎の名告も。或ハ時宗と書。あつ。ハ時政と書。る。あつ。べ。
推量の説とある。北条時宗執権の世。ハ。導て致の字ハ代。る。あつ。
と。北条時政。が。の。く。る。我ハ。席とす。中。て。竊ハ。仇。の
後。と。ハ。真。実。と。の。考。を。感激。せ。ふ。あ。つ。底。意。あ。つ。あ。の
胞兄弟と欺。く。騙。して。鎌倉殿とす。り。な。ん。為。く。その。あ。つ。あ。の。た。
この。と。の。子。家。既。ハ。亡。び。て。四海の賞罰。を。鎌倉の決。め。あ。つ。お。れ。り。
世。と。早。く。あ。つ。は。お。れ。る。幼。稚。ハ。あ。つ。ハ。海。内。の。権。柄。ハ。あ。の。づ。ら



曾我兄弟を賺せしむ。禪師公曉とてそのはて実教公と尊せしむ。至く
 北条父子の奸計ややふ敵勢とて我れらの統を後九代の執權時めぬ。
 公曉も又又我れ家の尊とてい比の初小しとて。其の頭末と洋小せしむ。
 時が人として右大臣とて又の仇をわらうとてを尊めしむ。鎌倉の武將
 たふんめ。禪師の外はほるゝの世とて。公曉へ実言とていひせしむ。又の仇もあ
 ぬ。叔父の大臣と害せしむ。その牙も忽ち北条が為に殺されしむ。北条
 父子が奸智は長し。曹操直義の上ふ出で。當時人て欺くとも。いつて天を
 欺く。ゆゑ後世論定りて人又その惡をいふの多し。各位は何とていひしむ。
 吾れ家物語といふ冊子也。往昔の小説るをたがねとてす。え記すもあらず。
 鬼王の童の名あり。曾我時宗の童名と稱王と唱へ又箱根の行童あり。
 壽王 東鑑文治五年二月十二日の樂童 又後寛僧都の童。扈從は有王龜王又為義の季

子も天王あり。源義經の乳名。建那王也。毛筆小違あり。こまにをるをい
 鬼王も又童の名ありとてあらず。東鑑建久四年五月廿八日の條あり。
 曾我五郎とて大見小平次と稱する。うゝのあれど。近江小平太といふ力の
 えき。新左衛門。國之へ後人の誘ひ。就中時宗朝夷が草摺引といふこと。
 絶てしむ。こまに建保元年。夏五月の和田合戦。朝夷三郎。義秀が足利
 義氏の禮の草摺とて。こまに組んとし。うけしむ。義氏その勇力も。敵
 が。こまにひて。馬は拍ひと奔らせしむ。草摺の井と断離して。朝夷が手小
 残り。主へ還し。脱と太とて東鑑。その餘の軍記に記せしむ。撮合して。か
 義氏と曾我五郎小僧といふ。彼朝夷へ和田義盛が三男あり。木曾
 義仲が妻。朝繪が産とてある。元暦元年春正月。木曾義仲へ近江
 の栗津とて討死し。い比朝繪へ和田義盛は生拘る。義盛朝繪が

